



— 新潟医療福祉大学同窓会 —

# 伍桃だより

発行にあたって .....	2
学長からのメッセージ .....	2
大学だより .....	3
学科近況 .....	5
卒業生だより .....	8
学友会だより .....	9
お知らせ .....	10

2008.10

第3号



平成19年4月に開設した義肢装具自立支援学科の学生が中古の車いすを修理している授業の様子。  
修理した車いすは「空飛ぶ車いす」というボランティア活動でアジアの国々に贈られます。

# 発行にあたって

新潟医療福祉大学同窓会会長 齊藤 公二



毎号「伍桃」「伍桃だより」を出す度に、大きく成長していく本会ですが、今回も会員の皆様に大きなニュースがあります。2005年に1期生が卒業してから早4年。本会も5年目に突入いたしました。これまで同窓会役員のみで運営を行ってまいりましたが、4期生までを輩出した本会の会員数は1200人を超えています。そこで、大学事務局と連携を行うことが急務であるとして、事務局内において、「新潟医療福祉大学同窓会支援室」を立ち上げていただくこととなりました。私たち同窓会員・役員をサポートしていただく組織ということで、大変心強く、これまで以上に事業内容が充実することは言うまでもありません。連携を機に、短・中期的な具体的目標を考えました。卒業生名簿の一元管理やオンラインコミュニティの構築、支部総会をはじめとする組織の強化及び拡

大、本学と会員との交流事業の推進、生涯学習・卒後教育等の提供などです。これまで役員だけでは足踏み状態であった事業や諦めていた事業ができ得ることを心から嬉しく思っております。これから段階的に、また優先順位を考えながら進めていきたいと考えております。

今後とも会員の皆様のために本会を盛り上げていけますよう精一杯努力していく所存でございます。これからもどうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、今年度も11月24日(月)に昨年設立いたしました首都圏支部の支部同窓会総会が開催されます。多くの会員の皆様のご参加を役員一同心よりお待ちしております。ぜひお誘い合わせのうえご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

## 学長からのメッセージ

# 卒業生の皆様へ

新潟医療福祉大学学長 高橋 榮明



卒業生の1期生から4期生の皆さん、お元気ですか。それぞれの職場で活躍されていることと思います。母校の新潟医療福祉大学から、2008年度の近況をお知らせ致します。

本学は開学当初の2学部5学科から、現在では3学部8学科となり、平成17年度から大学院修士課程、平成19年度から博士課程後期が出来、現在学生は2,342名在学しています。新しく出来た学部は「健康科学部」で、開学からの健康栄養学科、平成17年に設置された健康スポーツ学科、平成18年に出来た看護学科が新たに健康科学部をつくりました。そして平成21年3月には健康スポーツ学科から初めての卒業生が巣立って行きます。

同窓会は1期生が卒業した平成17年3月に出来ました。現在同窓の皆さんは1,263人の多さになっております。卒業生の皆さん全員と本学在学学生及び教職員を含めた「統合同窓会」の総会は、毎年、新潟医療福祉学会が開催される日に行われています。

各学科では、先輩と在学学生から成る「学科同窓会」があり、そして私は、地域における支部同窓会を提案し、昨年度から「首都圏同窓会」が出来ました。今後は、50名程度卒業生が在住している福島県、長野県で「県支部同窓会」をつくることを提案します。そして年1回各地にて支部総会を開催して頂き、皆さん方卒業生と在学学生、或いは大学の教職員と情報の交換をして頂きたいと思っております。皆さんから職場で、在校生の実習で、あるいは就職で卒業生を受け入れて頂きたいこと、或いは皆さんの周りに高校生が居たら是非本学を推薦して頂きたいとお願いたします。そして支部総会には、都合がつけ

ば、同窓会役員の出席、あるいはメッセージを伝えていただく、そして現職の教員或いは名誉教授に出席して頂いて本学の近況をお知らせすることを提案します。もちろん皆さんから同窓会誌に寄稿して頂いて、支部同窓会の活動状況を知らせて頂きたいと思っております。

本学は3学部8学科あることを特色として「専門職間連携教育」に力を入れており、インタープロフェッショナル・エデュケーションといえます。もちろん皆さんは、1年次後期で「基礎ゼミⅡ」を経験されたと思います。今年度は8年目を迎え、さらに進化しています。保健医療福祉の専門職、QOLサポーターを目指す「理念共有」が1年次の到達目標です。

4年次には「総合ゼミ」があり、片麻痺のリハビリテーション、地域医療、膝靭帯損傷のアスレチックリハビリ、メタボリック症候群対策などを、専門職の連携で、どのように対応するか、「協働実践」が4年次の到達目標です。専門職の知識を持っている4年生にとってこれは非常に大切な資質の確立で、本学では8学科あるということ認識して大いに発展したいと思っております。平成21年度から、カリキュラムがさらに新しくなり、コア・カリキュラムとして、2年次に「課題認識」、3年次には「連携創造」を到達目標に、毎学年この連携教育の授業科目を経験、コーディネート能力をつけていただきたいのです。

皆さんは職場においてどのような連携、チームワークを経験していますか。皆さんの経験を是非同窓会誌に寄稿して、皆さんがいかに活躍しているかをお教え下さい。ではまた皆さんからの便りを待っています。

# 大学だより

## 卒業生へのメッセージ

理学療法学科長 大西 秀明



卒業生の皆さん、お元気でご活躍のことと存じます。

本大学は開学して既に8年目になります。理学療法学科は開学当初から設置されていますので、既に2サイクル目（4年1サイクル）を終えようとしています。

今年度で1学年80名定員（実質100名）の学年が4学年そろいました。定員が倍増した際には、量的（人数）な悩みに加え、質的（学力）な部分が心配でしたが、入学してきた学生をみますと質的に大きな変化はなさそうな印象を受けています。

現在の4年生からは大幅にカリキュラムを変更して教育を行ってきました。4年生の臨床実習が7週間2期から10週間1期のみとなったのが最も大きな変更点です。それにあわせて、学内講義→学内演習→臨床実習の連続した流れを3回設定し、臨床実習がより効果的に行えるように試みています。

また、ゼミ活動を3年前期から行い、4年生の総合実習を10週間1期にすることにより、卒業研究活動に多くの時間を割くことができています。大学を卒業してから約40年間臨床業務から逃れることはできません。一方、理学療法の発展には欠かせない研究活動については、避けて通ることが可能です（残念なことに研究活動には一生無縁だと平気で口にする理学療法士がいることも事実です）。そのため、臨床実習の大切さを十分に承知しているながらも、ある疑問・事象に関してじっくり調査して考える時間を設けることに重点を置き、ゼミ活動や卒業研究に今まで以上に時間をかけられるように心がけています。新潟医療福祉大学の卒業生の皆さんが自らの治療効果を検証し理学療法学の発展に寄与してくれることを願っています。

昨年頃より、当学生の臨床実習指導に卒業生の皆さんが担当してくれていることが増えてきました。皆さんに感謝するとともに、教員としてはこの上なく嬉しく思います。自らの学生時代・臨床実習経験を想起しながら、後輩達を温かく指導して頂ければ幸いです。

当理学療法学科に対するご意見ご感想がありましたらなんなりと申しつけ下さい。皆様の益々のご活躍を祈念しています。

## 卒業生へのメッセージ

作業療法学科長 大山 峰生



夏も終わり、すっかり涼しくなってきました。卒業生の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか？ 風邪等めまされていませんかでしょうか？

私は食欲の秋と運動不足になりがちな冬に備え、夏には時間の許す限り運動することに努めております。今年の夏は、ジョギングに

力を入れました。信濃川沿いに約15kmを走りこみ、ゴールに着いたときには汗だくでへとへとになります。しかし、ジョギングを続けるうちに、その後に感じる疲労感はやがて爽快感へと変化し、ジョギングが習慣化されていくことを実感します。

早いもので、本学作業療法学科は今年の3月で4期生までが卒業し、183名の作業療法士を輩出致しました。1、2期生の多くの皆さんにおかれましては、作業療法士免許を取得後3～4年目に突入されていることと思います。これまでは、皆さんの対象者の方への治療サービスにより回復し、対象者に喜ばれることで満足感を得られたご経験もあるでしょう。また、一方では、“自分は対象者の方のために良いサービスを提供しているのだろうか？”、“期待された効果を挙げているのだろうか？”と、少々一人前的な悩みを抱え、ある時には挫折感を感じているのではないのでしょうか。

近年、作業療法分野では、“作業療法は効果があるのか”、また“効果があるとすればどのような効果があるのか”といったことが問われております。我々は、これらのことに対して真っ向から回答しなければならない立場に置かれております。内輪だけでなく、第三者に説得できる手法で説明しなければなりません。そのためには、携わった事例を積み重ねていく必要があり、しかも単に事例を積み重ねるというものでなく、作業療法の前後で評価を行い、その効果を検討するという過程を踏まなければなりません。評価自体がまだ十分でなく確立されているとは言えませんが、その場しのぎの評価ではなく、漏れのないよう計画的な評価をする必要があります。どうか皆様、“評価”というものを今一度見つめ直し、その評価を着実に実行して頂きたいと思っております。この過程を着実に実施するためには気力と労力を必要としますが、これを続けることにより皆様の今後の方針が明らかになります。また、最初は大変に感じますが、続けるうちに爽快感と達成感を感じるようになることと思っております。

皆様のご健康とますますのご活躍を祈念しております。

## 学科長からのメッセージ

言語聴覚学科長 渋谷 直樹



5期生からスタートした新カリキュラムも4年目を迎えましたが、その大きな違いのひとつは、臨床実習Ⅱが3週間、Ⅲが8週間になったことです。平成21年度入学者からは新新カリキュラムがスタートします。国家試験の出題基準も今年度から改訂されました。学科を取り巻く環境が変化していくと同様に、卒業生の働く職場の環境も年々変化しています。そのような変化に対応しながら、自分自身の臨床・研究能力の向上に励んでいることと思っております。

3、4年の経験を積むと新しいことにチャレンジしやすくなるようです。職場の変更や大学院への進学などを含め、卒業生からその様な声が聞こえてきますし、事実相談も寄せられ、またすでに実行した卒業生もおります。変化を求めて前進することは推奨されてしかるべきです。是非挑戦してください。

一方じっくり腰を据えて力量をつけることもまた大切なことです。思い描いていたSTの姿と現実の間で思い悩むことがあるのは当然です。そのような問題意識を持

ち未熟さを感じながらも、克服しようと努力しているという頼もしい便りも聞こえてきます。是非、自己実現を果たしてください。

卒業生はまだまだ若い世代です。絶えず刺激にさらされてもそれを糧として成長していくことが可能です。マイペースで、気長にがんばりましょう。大勢になった卒業生のいろいろな人生の可能性が広がっていくことを期待しています。研修会や学会で会えることを教員一同楽しみにしています。大学にも立ち寄ってください。

## 卒業生へのメッセージ

義肢装具自立支援学科長 江原 義弘



1期生から4期生の皆さん。元気で活躍していますか。この間は3期生から声をかけてもらって浜松で講演をしてきました。神奈川で講演したときには1期生と2期生に会うことができました。また先日は学内で研究会を開催した際には2期生がふたり参加してくれました。嬉しかったです。みなさんが社会に出て活躍しているのを見るのは本当に嬉しいです。さて、先日ある講習会に参加したのですが、会場は私立の大学が100周年記念で建てた建物でした。それからついこの間には別の大学から創立80周年記念式典の招待状がきました。両大学とも古い長い歴史をもっていますね。われわれの大学はまだ8年目ですね。でもすぐに40年、50年の歴史をもつようになりますよ。その頃には皆さんのうちの何人かは大学に戻ってきてくれて教授や准教授として後輩の指導にあたることになりすよね。わが大学の歴史を刻むのはまさに皆さん方なのです。楽しみです、期待もしています。そのときに「先生の講義は楽しかったから、その熱意と学問の楽しさを後輩にも伝えます」と言ってもらえるような講義をこころがけています。皆さん方が後輩の指導にあたる場合には現場での勉強に加えて是非、大学院で各自の才能をブラッシュアップしてほしいです。職場の近くの大学院でも結構です。わが大学院でも結構です。待ってますよ。一緒に後輩を育てましょう。

## ～今、栄養士・管理栄養士の仕事は

### 生き残りをかける正念場！～

健康栄養学科長 斎藤トシ子



卒業生の皆様、お元気にお過ごしでしょうか？ 早いもので、4期生（総計189名）が卒業しました。2期生から4期生は、まだ目の前の仕事をこなす事に精一杯かもしれませんが、1期生はそろそろ落ち着いて、これからの仕事の方向性を模索している方もいるのではないのでしょうか？

ご存知のように、現在、管理栄養士は、生活習慣病の予防・治療、若年者、傷病者、高齢者への栄養対策に向け、保健（一次予防）⇒特定健診・保健指導、医療（二次予防）⇒入院栄養実施加算、栄養食事指導料、福祉（三次予防）⇒栄養ケア・マネジメント、栄養相談 など食に関する重要な業務に大きな期待がよせられています。今後、管理栄養士の存在を確立し、国の政策に確実

に組み込むためには、表1のような業務内容の向上が求められていますので、今後の業務展開の参考にしてください。いつまでも日々研鑽を積み重ねることが大切です。最後に、村山伸子先生からもコメントがありますのでお伝えします：「今、栄養や食は注目されていますので、チャンスだと思ってやりたいことを見つけてください」。

表1. 現在の管理栄養士に求められていること（主な内容）

<p>▷連携・協働による業務推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NSTの推進・栄養管理マネジメント（栄養管理実施加算）実績の積み上げ・栄養ケア・マネジメントの実績の積み上げ・健診、保健指導のアウトソーシング化による事業推進・保健、医療、福祉の地域連携（退院後の栄養管理）・保健機関、医療機関、福祉施設、地域、家庭の連携</li> </ul> <p>▷臨床栄養管理技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傷病者の必要量の理解・急性期の栄養アセスメント・栄養と薬物の相互作用の理解・栄養状態と健康状態、病態の関係の理解</li> </ul> <p>▷地域活動拠点の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養ケアステーションの確立・院外における栄養指導報酬の確立・独り立ち職務の確立（開業栄養士）</li> </ul> <p>▷顧客に目を向けた対人サービス（国民への貢献）</p> <p>▷特別用途食品、保健機能食品の活用と品質管理</p> <p>▷栄養士業務を支えるエビデンスの蓄積</p> <p>▷収益性、採算性（経営能力）重視の事業展開</p> <p>▷在宅指導実施率の向上</p> <p>▷栄養教諭制度の確立（専任制）</p> <p>▷新領域への業務への挑戦・展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗展開（機能性食品、薬膳等）</li> </ul>
---

## 第一期の卒業生をよろしくお祈いします

健康スポーツ学科長 和唐 正勝



健康スポーツ学科では、来春、初めての卒業生を送り出すことになりました。第1期生は総員70名余り、4年生にもなると最上級生としての自覚も出てきて、入学時と比べてみても見違えるようにたくましく成長してきました。

健康スポーツ学科は、人々の生きがいのある豊かな生活の質（QOL）を支えるため、スポーツや運動について高度な知識・技能をもつ実践力のある幅広い人材の育成を目指しています。そのため就職の希望職種や就職先も、地域でのスポーツ活動や健康増進を支える指導者やスポーツ選手をサポートするトレーナー、あるいは学校での保健体育教員にとどまらず、金融業やサービス業などの各種企業や公務員など多岐にわたっています。

現状では保健・医療にかかわる分野での就職者は少ないため、本学科の卒業生が同窓生のみならずとお会いする機会は、他学科の卒業生に比べ少ないかもしれません。しかし、再来年からは、本学科から毎年110名余りの卒業生が社会に出て行くことになり、お会いする機会も増えてくると思います。社会人1年生として多様な職場で働く本学科の卒業生に対して、同窓生として先輩方の温かいご指導とご支援をお願いいたします。

## 学科長就任に当たって

看護学科長 塚本 康子



卒業生の皆様、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

この4月から初代学科長の渋谷優子先生から大役を引き継ぐことになり、学科長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。看護学科は平成18年

度に開設されて今年で3年目、最高学年が3年生になりました。学生達が1・2年生と増え、3つの看護学実習室がある第4研究・実習棟も活気にあふれています。学年進行とともに教員の数も増え、開設当時から比べると雰囲気も随分変わったように思われます。

看護学科では、高い専門的知識と実践力を身につけ、倫理観にもとづいた豊かな人間性をもつ看護職の育成をめざしています。学生達は、将来病院や在宅で活動する看護師をめざす人、地域や公衆衛生の場で活動する保健師をめざす人、また人の誕生に直接関わる助産師をめざす人、学校で活動する養護教諭をめざす人とさまざまです。それぞれの将来像を描いて学んでいることと思います。来年に計画している4年生の実習が終了した頃には、看護師・保健師・助産師の国家試験が待ち受けています。複数の国家資格を得るためのカリキュラムですから学生にとって過密だとは思いますが、それぞれの将来像に向かって充実した学生生活を送ってほしいと願っています。

再来年の春には看護学科の第1期生が卒業していきます。先に社会に巣立っていった同窓の皆様、暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

## 卒業生の皆さんへ

社会福祉学科長 丸田 秋男



卒業生の皆さん、お元気ですか。全国各地の保健・福祉・医療等の現場で存分にご活躍のことと思います。歳月が経つのは早いもので、この3月には4期生が卒業し、社会福祉学科の卒業生は500人を超えました。

皆さんを目標にしていた在學生も先輩に続けとばかり、高い志をもって勉学と社会貢献活動に取り組み、今年の4年生は難関の新潟市や川崎市等の上級試験（福祉職）合格の道を開いてくれました。

この間、多くの卒業生が学科を訪ねてきてくれたり、近況を知らせてくれたり、時には飲み会に誘ってくれたりしています。結婚式の招待状も届くようになり、いそいそと心を踊らせて出席させていただいております。

また、卒業生の活躍ぶりについては、福祉施設や病院で管理的職務に就いている者、地域子育て支援センターや障害者地域生活支援センター、地域包括支援センター等でソーシャルワーク専門職として地域連携を推進する者など、様々な分野から高い評価を受けております。

本学科では、このような卒業生の活躍ぶりを教員の楽しみや喜びに止どめず、皆さんの卒後の交流や連携などに結びつけたいと考え、学科同窓会の組織化に取り組むこととしました。つきましては、一人でも多くの卒業生の皆さんの動向を把握したいので、お気軽に合同研究室（電話・FAX：025-257-4508）に近況等をお知らせくださるようお願いいたします。

## 学 科 近 況



### 理学療法学科近況

理学療法学科准教授 古西 勇

卒業生の皆さん、お元気ですか？ 最近、在校生から臨床実習や就職活動で「卒業生の〇〇さんにお世話になりました」と聞くことが多くなったような気がします。皆さんが後輩に対してとても親身になって接してくれているのだなと実感しています。ありがとうございます。

さて、理学療法学科では、1期生と2期生の皆さんを中心に行った米国への海外研修旅行を出発点として、毎年のように海外研修のツアーを組んできました。今年度は、既に8月に亀尾徹先生の引率によりオーストラリアへの研修が実現され、徒手療法の本場で大変刺激的な毎日を過ごして帰ってきたようです。今後も、2月か3月に米国や東南アジアへの研修が企画されています。アジアの他の国での研修は今回が初めてとなります。8月末に幕張メッセで開かれたアジア理学療法学会でアジア各国の学生の代表がスピーチを行った学生フォーラムに参

加された方はきっと感じられたと思いますが、どこの国でも理学療法士を目指す学生は夢を持ち、その夢をかなえるために大変な勉強も苦にしないという点は共通しています。

今回の東南アジアへの研修は、フィリピンを対象国とし、障害のある人が中心となって運営している作業所や、地域に根ざしたりハビリテーション（CBR）の見学、大学での理学療法学生との交流などを通じ、広く開発途上国でのリハビリテーションへと視野を広げてもらうことを目的とします。

私たち教員は、在校生のみならず卒業生の皆さんの「窓」となり、皆さんがさらに視野を広げ、将来の夢を確実にかなえられるようお手伝いできれば大変嬉しい限りです。近くまで来られたときにはぜひお立ち寄りください。

### 作業療法学科近況

作業療法学科教授 能登 真一



卒業生のみなさん、お元気ですか？

今回は小生が作業療法学科の近況をお知らせいたします。とは言ってみても、とくに変わったことはありません。良くも悪くも、例年の秋と同様に3

年生は評価実習前の準備、4年生は就職活動と国試の模試などに、そして教員たちは後期の授業の準備に追われる毎日を過ごしています。開学8年目、大山体制としては2年目、少しは軌道に乗ってきたということでしょうか。そういえば、大学の中ではちょっとした異変が起きています。大学の近所に巣を作ったらしいスズメバチが毎日たくさんブンブン飛んできているのです。ハチ嫌いな小生などはちょっと怖いですが、ハチに目をつけられないようにサッと通り過ぎるようにしています。

一方、世の中に目を向ければ、サブプライムローン、消えた年金、汚染米などいろいろとびっくりするニュースがあふれていますね。本当に何が起ころかわからない不確実な時代です。今後も日本では少子高齢化の進展で、さらに不確実な時代が続くことでしょう。一般的に、不確実な状況下では情報収集に裏づけされた的確な状況判断が求められると言われていています。考えてみれば、われわれの職業である作業療法も結果が予測できなかったり、医療や介護保険の仕組みがころころと変わる中で仕事をし続けなければいけなかったりと、いわば不確実な仕事ですね。だからこそ、日々の臨床現場では情報収集をしっかり行い、できるだけ確実な作業療法の実施に努めてください。

最後に一言。新人のうちはスズメバチのような怖い先輩に目をつけられた方がいいですよ。きっとその方がいい意味で自分に厳しく、成長できます。でも、くれぐれも刺されないように。



## 言語聴覚学科近況

言語聴覚学科准教授 山岸 達弥

言語聴覚学科は今年度で5回目の卒業生を送り出すことになりました。ようやく最終学年を5回経験し、教員も職務に慣れてきたように思います。余裕があるわけではありませんが、落ち着きを取り戻しているといったところです。では、近況をお知らせします。

亀田和男特任教授は昨年の前期で講義を終了しておりましたが、今年の3月末をもって正式に退職されました。一方、4月から川崎医療福祉大学より吉岡豊准教授が着任し、亀田先生の科目と聴覚関連科目を担当しています。他の教員の皆さんは今までどおり元気しております。今後教員の需要は高まると思いますので、教員という将来像を思い描く卒業生が現れることを期待しています。

今年の3月末に、2年生3名と3年生1名を引率して、米国ボストン市を中心に英語研修に行ってきました。本学科としては初めての企画でしたが、研修先のウースター州立大学の先生や学生の皆さん、またヘレン・ケラーの母校であるパーキンス学院の先生から盛大な歓迎を受け、成功裏に終わりました。米国における言語聴覚士の様子がわかり、勉学に励む原動力になったのではないかと思います。在校生は卒業研究も終了を迎え、就職活動も順調に進んでいます。後は国試を頑張る

だけ！

実際に臨床に就くとまだまだ知識・経験不足を感じていることと思います。失敗もたくさんしたことと思います。そうした経験を肥やしにして、これからも楽しい仕事ができるよう成長してください。大学にも相談したり遊びにきたりしてください。



## 義肢装具自立支援学科

について

義肢装具自立支援学科准教授

月城 慶一

この学科は当大学にできた8つ目の学科で、現在47名の2年生と48名の1年生、そして来年度入学予定の台湾からの聴講生が学んでいます。ところで皆さんは義肢装具士という資格をご存知ですか？ 今日、卒業生の皆様にこの新しい学科を紹介するにあたり、義肢装具士(以下PO)について少し紹介しておきたいと思います。この資格は、理学療法士(以下PT)や作業療法士(以下OT)と同様、医療系国家資格です。義肢装具士が勤務するのは主に全国に約600社あるといわれている民間の義肢装具製作会社です。この点、主に病院に勤務するPTやOTとは異なります。全国の義肢装具製作会社の従業員総数はおおよそ6,000人、その内、POはおおよそ2,500人です。年間の求人数は約200名とわずかです。この点でもPTやOTの状況と大きく異なります。ちなみに日本で義肢に使われる公的補助は約50億円/年、装具は約300億円/年です。義肢装具以外には多くの種類の福祉用具があり、それらの規模はユニバーサルデザインによって一般商品化したものも含めると1兆円と言われていています。残念ながらそれらの分野にはPOの活躍は現在無く、国家資格も存在しません。この学科は卒業生をPOとして、義肢装具を含めた幅広い福祉分野で活躍させることをコンセプトとします。この分野における資格制度が発達しているドイツでは、人口百万人に対するPOの数が150人で日本は15人と大きな開きがあります。超高齢化社会におけるPOは、義肢装具だけにとどまらず、今後は広く福祉用具の分野で活躍が期待されることでしょう。今回はこの学科の日々の活動の様子を報告したいと思います。



## 健康栄養学科近況

教授 伊藤 直子

卒業生の皆さま、お元気ですか？ 食欲の秋、しっかりきちんと食べていますか？

さて、健康栄養学科の近況をお知らせします。昨年の9月より中国出身の張国珍(ちょうこくちん)先生(ご担当は情報処理)が講師として、また今年の4月より、本学科4回卒業生の樋口真紀子先生が助手として赴任さ

れました。それから、開学以来、皆さまを教えてくださいました山本通子先生と堀田康雄先生、昨年赴任された萬羽郁子先生が3月末をもって本学を退職されました。山本先生は鎌倉女子大学に赴任されましたが、集中講義等で年に何回かは本学にいらっしゃいます。堀田先生は東海学院大学に赴任されました。萬羽先生は、奈良女子大学大学院に入学され、勉学を続けられています。また、大学院では本学科からは2期生の佐々木万衣子さんが修士課程を修了され、現在は青森県立大学の助手に採用され、元気に活躍されています。

学科の取り組みとしては、昨年の秋に、朱鷺メッセで行われた新潟県健康づくり食育推進県民大会に出展し、在校生と教員の連携プレイにより、市民への健康づくり支援及び学科のPRを行いました。卒業生も何人か立ち寄ってくれました。

毎年、3年次には臨地実習がありますが、卒業4期目ともなると、私たちが実習先にご挨拶に伺ったとき、そこで働いている皆さまに会う機会が多くなってきました。また、学会などでお会いすることもありました。それぞれに元気に頑張っているのを見て、とてもうれしく思っています。しかし、中には仕事や人間関係などで悩んだり失敗したりした人もいますかと思えます。そのような時には、健康栄養学科の仲間の強い絆で乗り越えていってください。私たち教員も相談にのります。うれしいことがあったとき、悲しいことがあったとき、ぜひ私たちのところへ話に来て下さいね。お待ちしております。



## 健康スポーツ学科近況

健康スポーツ学科教授 高橋 一榮

平成17年度新たに開設された健康スポーツ学科は、今年度で4年目を迎え、1年生から4年生まで全学年がそろいました。

4年生は現在就職活動や卒業論文制作などで、多忙な日々を送っています。卒業論文制作は、グランドデザインの段階から、実際の測定や聞き取り調査など具体的活動の段階に移行し、各ゼミとも活気溢れる活動が行われています。3年生は、各ゼミ所属も決まり、4年生の活動を参考に、研究テーマの決定を始めています。2年生1年生は、基礎科目等の学習や、クラブ活動などに積極的に参加し、力を蓄えつつあります。

健康スポーツ学科の学生を中心にした強化部の活動も盛んです。水泳部はその活動が世界に広がり、4月イギリスで行われた短水路世界選手権に、4年澤田涼さんが日本代表として参加し、リレーで8位入賞し、監督の下山先生も日本チームコーチとして同大会に参加しました。チームでは関東学生選手権で女子は1部で総合2位、男子は2部で総合3位を獲得しました。

バスケットボール部、春季北信越学生バスケットボール大会では女子1部優勝、男子3部優勝、新潟日報杯では女子2位、男子3位と活躍し、インカレ男女アベック出場をかけてハードトレーニングの毎日です。

サッカー部は、男子、総理大臣杯準優勝、北信越フッ

トボールリーグ2部、3位、新潟県大学・高専リーグ優勝。女子部員大分国体出場等活躍しています。

陸上部長距離では、4年牧良輔くんが全日本インカレで3000メートル障害で5位入賞し、出雲全日本大学選抜駅伝の北信越代表にも選ばれています。



## 看護学科近況

看護学科長 塚本 康子

看護学科が開設されて3年目を迎えました。1期生が3年生となり、1年生・2年生と学生数も増えてきました。来年には完成年度を迎えますが、学生達にとって卒業までに越えなくてはならない大きな山が臨地実習です。

9月には2年生の基礎看護学実習Ⅱ(2週間)が無事終了しました。3年生は昨年の9月に基礎看護学実習Ⅱを終了してから座学中心のカリキュラムでしたが、本年度10月から領域別看護学の臨地実習が開始しました。実習施設は総合病院、リハビリテーション病院、がんセンター、老人保健施設、地域包括支援センター、精神科専門病院、保健所、市役所、訪問看護ステーション、保育園など多岐にわたっています。臨地実習は単位数も合計で27単位と、看護学科カリキュラムのなかで質・量ともに重要な位置を占めています。3年生には緊張感が漂い、実習前には看護学実習室で真剣な顔をして事前学習に取り組む学生達をたくさん目にしています。実習中、頼りになるのは優しくて頼もしい先輩達ですが、残念なことに看護学科にはまだ卒業生がいません。そこで、卒業生の皆様にお願ひがあります。同窓の皆様、不安そうにしている学生を見かけましたら声をかけていただけませんか。ご支援いただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 社会福祉学科近況

社会福祉学科合同研究室 内保 美穂

社会福祉学科は今年度で開設8年目を迎えました。本学科では、例年多くの学生が社会福祉士国家試験を受験し、高い合格率を出しておりますが、昨年度(2007年度)卒業生の合格率も、社会福祉士が57.4%、全国で受験者数100人以上の大規模な大学51校中、第4位という素晴らしい結果でした。精神保健福祉士は念願の合格率100%を達成し、全国120校の精神保健福祉士養成大学中の新卒部門で第1位でした。

就職率についても、昨年度(2007年度)卒業生は、平成20年3月31日現在、98.3%という高い数字でした。今年度の4年生も順調に内定率を伸ばしており、昨年と同様、高い就職率となることが予想されます。

また、国家試験および就職以外で特筆すべきことは、今年10月大分県で開催される第8回全国障害者スポーツ大会の新潟県・新潟市選手団の役員として、本学の4年

生2名が派遣されることになったことです。これは大変名誉なことです。4年間にわたるボランティア活動を通して、障害のある方々とのコミュニケーション能力等が評価された結果です。

来年には、社会福祉学科をはじめ本学の学生150名が第9回全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）の

選手団サポートボランティアとして活動することとなっています。

卒業生の皆様のご活躍も各方面から聞こえて参りますが、ぜひ機会をみつけて大学に足をお運びになり、在校生や教員に近況をお聞かせください。お待ちしております。

## 卒業生だより

### 三富 陽輔

(新潟中央病院リハビリテーション部/理学療法学科卒業)



大学を卒業してから半年が経ち、職場にもだいぶ慣れてきました。

同じ臨床の場とはいえ、実習とはまた違う”現場”を日々感じながら努めています。

まだまだ知識や技術がなく、未熟さを痛感することもあります。

4年間大学で学んだことを生かしながら、理学療法士としての自覚をしっかりと持ち、日々精進していきたいと思っています。

### 松下 裕

(新潟リハビリテーション病院/作業療法学科卒業)



新潟医療福祉大学を卒業し、現在の職場で働き始めてあっという間に半年が過ぎてしまいました。やっと職場の環境にも慣れ、少しは作業療法士らしくなってきたのではないかと感じています。今は主に整形外科の患者様を担当しDAL指導などに力を入れ、スポーツ外来で来院する方にはプリントの作製なども行なっています。これからも先輩や他職種からさらに多くのことを学び、また、大学院での研究にも力を入れて、さらに成長できるように日々努力していきたいと思っています。

### 小林 真衣

(新潟南病院/言語聴覚学科卒業)



言語聴覚士として働き始めて早半年が過ぎようとしています。忙しくも充実した毎日を送っています。私の病院では自宅に退院されていく方が多いです。そのため、より患者さんの本来の生活に近いところで支援ができるということにやりがいを感じています。技術のなさに落ち込むこともありますが、退院していく患者さんの笑顔は最高です。それを励みにこれからも頑張っていきます。

### 立川八重子

(ウエルシア関東/健康栄養学科卒業)



ドラッグストアに入社してから半年が経ちました。お薬のこと、健康食品のこと、一般業務など毎日が勉強で、充実した日々を過ごしています。現在、健康食品の担当を任されており、特に美容やダイエット、健康に興味のある方々多くご

来店されます。お客様によって悩みは異なり、その方々に応じた接客が求められるため、多くの知識とカウンセリング能力が必要だと感じています。そのため、管理栄養士としての食知識だけではなく、お客様にとって役立つ情報の提供が出来るように、今後もサプリメントや健康食品などの新しい情報にも広く目を向けていきたいと思っています。

また、お薬についても多く聞かれるので、これから知識を深めて薬の販売ができる登録販売士の資格の取得を目指して頑張りたいと思っています。

### 瀬藤 和哉

(アサヒアレックス株式会社/社会福祉学科卒業)



私は今社会福祉の分野から離れ一般企業の住宅会社に就職して早くも半年以上が過ぎました。

覚えなければいけないことばかりで毎日悪戦苦闘していますが1日1日を学びのある社会生活を送っています。まだまだこれからも覚えることはたくさんありますが、日々成長しながら毎日を送っていこうと思います。

### 下村 翔子

(三之町病院/言語聴覚学科卒業)



私の就職した病院は急性期から回復期まであります。

性期病棟は患者さんの入れ替わりが激しく忙しいため、気付けば1日が終わっているという毎日です。

一方で回復期病棟ではリハビリを時間をかけて行うことにより、患者さんの回復力が目に見えやりがいを感じます。

技術のなさに落ち込む事もありますが、患者さんの笑顔に支えられ、とても勉強になる日々を送っています。

# 学友会だより

## 最近の学友会

学友会顧問 義肢装具自立支援学科准教授 月城 慶一

今年度から秋山先生とともに学友会の顧問をさせていただくことになった月城です。とある委員会で秋山先生と一緒に仕事をしている中でお誘いを受けました。はじめは『ときどき声をかける程度でいいのかな』と軽い気持ちで引き受けました。6月に行われた学友会&教職員の合同会議に初めて出席したとき、私の認識が間違っていたことに気がつきました。会議中、以前より学友会の面倒を見ている職員から何度も質問があったのです『昨年度の決算と今年度の予算計画はいつ完了するのか?』と。私の頭の中は?マークで一杯になりました。『今年度はもう3ヶ月近く経過しているのに、今年度の予算がまだ無い???』。その会議では冒頭から『ある部活から特別予算の嘆願書が上がっているけど認めてよいか』とか『学友会の部屋が狭すぎるので広くしてほしい』などといった、具体的要望が挙がっていました。しかし、今年度の予算案を直ちに作成し、承認を得るまですべての案件は取り上げないと宣言しました。

それからは、前期の試験期間前ではありましたが、三役、すなわち学友会会長と副会長そして会計は、空き時間を利用して決算と予算作成に取り掛かりました。決算で行わなければならない仕事は、各部活動からの残金と通帳の回収、年度当初のお金と、支出と残金を明確にすることです。金額が合わないので何度も何度もやり直し、気が遠くなる作業が、時には夜を徹して行われました。

決算が終われば、次に今年度の予算立てとそれらの承認を得るための総会の準備です。総会には多くの参加者と委任状が必要です。それまでの総会は、聞くところによると参加者がほとんど無く、委任状は学友会メンバーが各教室で集めていたそうです。そんなやり方では学友会メンバーの存在感は薄れるだけです。

そこで2つの方法を新たに設定しました。部活動の責任者と会計には、出席しないと予算受け取りの大事な手続き情報が得られないと連絡し、総会に出席してもらうようにしました。委任状に関しては、総会開催の一週間前から毎朝、学友会メンバーが校門のところで総会出席の呼びかけと委任状集めを行いました(写真1)。結果、委任状300、出席者70名の総会を開くことができ、昨年度の決算と今年度の予算が承認

されました。総会后、会計担当はしみじみと言いました『こんなに仕事をしたのは初めて。やればできるというのが分かった』と。また総会后の学友会&教職員の合同会議で吉田学友会会長は今まで学友会の歴史を振り返り、今後の方針として以下のことを皆に説明しました。

- ・いままでは役割や仕事内容の引継ぎが不十分
  - ・メンバーは何をどう処理していいのか自信が持てず仕事を先送りしてきた
  - ・これからは、各人の役割を明確にし、各メンバーが経験を積むことによって自信を得、しっかりと活動していきたい
- この総会を得て学友会は、この大学内における役割と責任に気づいたことと思います。学友会は、『何か人の役に立ちたい』『仲間がほしい』『有意義な大学生活を送りたい』と自主的に参加した者の集団です。彼ら自身が自分たちの思いをどうか実現してほしいものです。これからの彼らの成長を見守っていきましょう。

総会が終わった次の大きな仕事は、伍桃祭の準備でした。伍桃祭は例年通り実行委員会が準備しましたが、学友会は実行委員会を強くサポートし、一緒に準備しました。なぜなら次年度からは学友会が主体となって伍桃祭を準備するからです。学友会のメンバーが中心となって実行委員会&学友会合同BBQを行い(写真2)、結束力を高めて学祭準備の仕事をしました。例年通りのイベントに加えて、今年度はエコに関する啓蒙やフリーマーケットなど新しい取り組みにも力を入れ、第8回伍桃祭は大成功でした。学友会はまた一歩進化したことでしょう!

最後になりましたが、卒業生の方々へのメッセージです。皆さんは、学生時代に経験した様々なことを今、実社会において生かしているはず。それはすばらしいことだと思います。学生時代と比べて、テンポも速く責任も大きいです。結果もはっきり分かり、やりがいも大きいのではないですか!? 時には頑張りすぎて疲れてしまうこともあるでしょうが、しっかり体調を整え、その時々のお会いや経験に有意義さと喜びを見出してほしいと願っています。そして時間をつくって、母校に遊びに来てください。学友会と母校の進化をどうか応援してください。



写真1 総会出席の呼びかけ



写真2 伍桃祭実行委員会とのBBQ交流

## 学友会長メッセージ



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。  
平成20年度学友会長の理学療法学科3年吉田聡介です。

昨年度は副会長として大学祭、会計、スポーツ大会、地域交流など様々な活動に携わり、多くの反省点があったことを受け、今年度から学友会会則を変更しました。大きな変更点としては、大学祭を学友会と大学祭実行委員会が一致団結して盛り上げていくために、一つの組織編制にした点です。他にも部活やサークルの管理方法、学内掲示板の管理方法、学友会構成委員の変更などがあります。

新潟医療福祉大学が開学して8年目になり、ようやく学友会組織の基盤が出来てきました。これから在学生が過ごしやすい学園生活を送れるよう頑張りますので学友会を温かい目で見守ってください。また、近くに来た際には是非、大学に足を運んでください。

### 平成20年度 同窓会活動

- 10月25日(日) 同窓会総会(会場:新潟医療福祉大学)
- 11月24日(月) 首都圏支部総会(会場:新潟医療福祉大学 東京キャンパス)

### 新潟医療福祉大学 同窓会支援室より

卒業生のみなさん、日々活躍されていることと存じます。

さて、本学では今年度より同窓会支援室を組織しました。今後、卒業生と大学間との更なる連携および卒業生同士の交流など、同窓会活動を活性化させていくための支援を行いたいと考えております。

ご意見・ご要望等ございましたら、同窓会支援室までご連絡ください。

新潟医療福祉大学同窓会支援室(大学事務局内)

TEL : 025-257-4455 (代表)

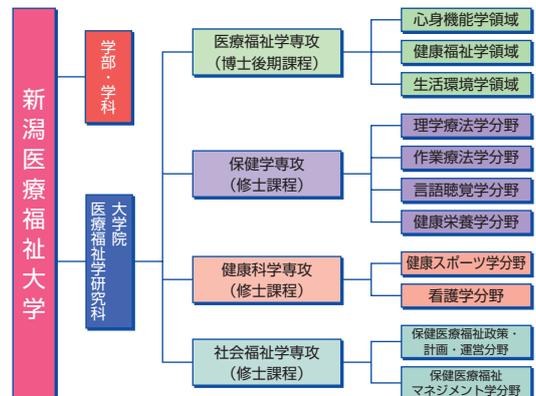
FAX : 025-257-4456

## 母校の大学院で学んでみませんか？

卒業生の皆さん、お元気ですか？ 早いもので本学も第4期の卒業生を送り出し、新潟県内外で多数の卒業生が職場でご活躍されていることと思います。

さて本研究科においては、現場で必要とされる専門知識をさらに高めて、臨床・実践・管理・計画策定等の面でリーダーシップを発揮できる保健・医療・福祉分野のエキスパートを目指す方や、教育職・研究職を目指す方を応援します。大学院生の中には、本学卒業生も多数在籍し、仕事の傍らさらに研究を続けたい、もっと勉強したいと大学院に入学される方、又は修士から博士後期課程に進学される方もいらっしゃいます。

新潟医療福祉大学院は学びたい意欲を持った皆さんをお待ちしています。



### 皆さんが入学する場合は入学金が半額になります！

- 1、平日の授業は18時10分からのスタートです。また土曜日の授業や集中講義も履修できます。
  - 2、長期履修生制度を利用すると修士課程の場合3年間または4年間かけて計画的に修了することも可能です。
  - 3、各種奨学金を用意し、修学のバックアップをします。
    - 特別奨学金（年間15万円～20万円を支給）
    - 修学援助奨学金（2年次に15万円～20万円を支給）
    - 日本学生支援機構奨学金  
（無利子奨学金月額8万8千円貸与、有利子奨学金月額5～15万円貸与）
- \*いずれも選考あり

資料請求やお問い合わせは本学入試事務室までご連絡ください。

### 新潟医療福祉大学 入試事務室

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地

TEL : 025-257-4459 FAX : 025-257-4456

E-mail : nyuusi@nuhw.ac.jp URL : <http://www.nuhw.ac.jp/>

### 編集後記

同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

この度同窓会では、会員の皆様に対して母校の近況、会員の皆様の活躍ぶりをお届けしたいと思い、伍桃だより第3号を発行いたしました。

同窓会では卒業生と在校生をつなぐ役割が出来れば良いと考えています。4期生が同窓会に加わり、同窓会の規模も大きくなってきました。これからの活動はもっと活発になっていくと思います。今後この伍桃だよりをよりよくしていくために、会員の皆様の遠慮ないご意見・ご要望・ご感想をお待ちしております。なお、いただいた原稿は原文のまま使用させていただきましたことをご了承下さい。

（2期生・山口 正樹）

発行：新潟医療福祉大学同窓会